

2017/2/13

## (日々雑感 14)



※画像はイメージです

明日、バレンタインデーにこんな野暮な話はしたくないので、今日、二本目の記事です。

手を換え、品を換えして、ダイレクトには表せない話を、状況だけでも推し量ってもらおうと何度も試みましたが、経験が経験だけに、こんなこと話しても理解してもらえない。話が死屍累々。もう手がないし、同意するか否かは別として、少なくとも理解すらされない話しをするのは、自分が惨めになるだけ。それに聞く方にとっても、かなりの努力を強いるそういった話は、鬱陶しくて迷惑だろうし。

そう思い始めて気持ちが、潮が引くようにすすーっと後ずさりし始めた途端、孤独というものゝの正体がなんとなく分かってきたような気がしてきました。

以前、他のブログで「孤独とは、円弧を書いて、その外にも出ず、内にも入れない自分自身のあり方の問題」だという風な書き方をしました。恐らく大半はここまでかもしれせん。

しかし、最近、その先がありそうなことに、ぼんやりながら気づかされました。

「円弧の外にも出ている。窓も扉も開けている（つもり）。だのに誰も近づいてこない。入ってこない」状態が常態化するときです。投げた球が、闇に吸い込まれて、いつまで経っても壁に当たった音もしないし、帰っても来ない、静寂だけの状態。

世の中とつながっていた最後の糸が切れてしまったような感情。

「終わったな・・・」

受ける側のこういった状況の現出は、おそらく、相手側の自己防衛本能のなせる技のような気がします。

危険や恐怖を感じたときに、作動するのが自己防衛本能です。個体を守ろうとする本能です。

それでは、具体的に「自己」の何を守るのか？

たとえば、順不同で、生命、財産、価値観、将来、家族などでしょう。

いくら何でも、この段階では生命、財産、家族と言うことはないでしょうけれども、少なくとも価値観と将来（に対する影響）においては、今、目の前にいる人間が、自分のそれと相容れない、あるいは否定か破壊を予感させる人物だと咄嗟に判断される。

「近づくな、避けろ、逃げろ」と本能が警鐘を鳴らすとき、こちらにとっては、あまりにも無慈悲な態度で背を向ける場合があるようなのです。

理屈ではないので、手の打ちようがありません。論理も、掛ける時間も役に立ちません。そうしてまだぞろ孤独になる。

そして幾ばくかのさらなる沈黙の後、突如、臨界点に達して、無造作に大爆発する。本人自身すらも巻き込まれてしまう大爆発。

ぼくは犯罪心理学者ではないので、正解かどうかは分かりませんが、今の自分に時折、泡沫（うたかた）のように浮かび上がる感情の群れを見ているとそんな気がしました。

いい加減どこかでガス抜きをしないと、自分にとっても周りにとっても良くないなあ。

とつくづく思っております。

ぼくは今まで、いろんな問題を思考や感情の持ち方の反復訓練でしのいできましたが、孤独は、そういった訓練ではしのげない気がします。そんなもの、いとも簡単にすり抜けてくる気がするからです。

とりあえず、お金は幾分かかりますが、自分と周りの人のために、今晚、元の地元の飲み屋さんにも行って、ガス抜きでもしてこようかなと思っているところです。以前のように、ちょっとはしゃいでこようかなと思っております

。